
これは小説ですか？いいえ漫画のプロットです(本当です)

紙神師氏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これは小説ですか？いいえ漫画のプロットです（本当です）

【Nコード】

N5148Y

【作者名】

紙神師氏

【あらすじ】

これは、あくまで漫画用プロットを載せただけです
それでもいいやと言う人だけ読んで
評価してくれたらなと思います

この世にはもつていにも…（前書き）

これが面白いと言う人がいたら

漫画を描いてジャンプに投稿したいと思っています

よろしく願います

この世にはもうないかも…

俺には友達がいた

だが、それは突然の出来事だった…

三ヶ月前

ある日、俺はその友達と一緒に学校の帰りに寄り道しながら帰っていた

友「はあゝひまだな」

主「暇だなゝじゃねえよ（笑）ばか明日はテストがあるから今日は午前で帰れたんだから

すぐに帰ってでも勉強しなきゃいけないだろ？」

友「まあそうだけどさあ、お前は…ちゃんに教えてもらえばいいから楽だよな（笑）」

主「確かにあいつは教えてくれつつたら教えてくれるだろうけどさ」

…ちゃんとは俺の彼女のことだ

俺たちはそんなに頭は良いほうではないだからといって

勉強に勤しんだりするわけでもない

主「あいつにあんま借り作りたくねえんだよ…」

友「ひゅー！かっこいいじゃん」

主「と言うわけで友人A図書館いこうか？」

友「友人Aって俺のこと！？？」

主「他にだれかいるのか？俺には視えないが…」

友「いやいやひどいねあんた友人Aって…まあいいや」

そんなふうにあんたはくだらないことを話したりしていた

友「で、ホントに図書館行って勉強すんの？」

主「ああ」

友「ああゝめんどくせー」

主「まあそういうなつてもしかしたらお前の好みの女の子がいるかもしれないぜ？」

友「…まあそんなにいうなら付いて行ってやらないこともないぜ？」
にやけ面でそういった

主「なんかいま間が空かなかったか？」ニヤニヤ

友「…気のせいだ。さ早く行くぞこっちの工場通つたら近道じゃん」

主「おいおいあぶねえんじゃねえか？」

友「でい丈夫だつて」

今思えばそれを止めておけばよかった…

ドーンと言う爆発が聞こえた気がした

否 聞こえた気がしたと言うより

聞こえてはいたのだはつきりと

意識を失う直前に…

何もない距離感すらつかめないただ…真っ白い場所

俺は立っていた

主「さっき俺たち爆発に巻き込まれて…！」

俺はハッとした

主「…俺は…し、死んだのか？さっきので嘘だろ？あいつは…はどこだ？」

そして真っ白の世界が霧が晴れたようように向こう側が見えた…

主「なんだあれ柵？か人がいるのか！？」

俺は走ってその場所に向かった無我夢中で

柵の向こう側にいた奴は…だった

主「なんだお前もいたのかよおい！ここはどこだ？知ってるか？」

柵の向こう側はとても暗かったとても深い闇のようだった…

…は返事をしてくれない

主「おい！…！」

やっとこちらに気づいた

友「…か？良かったお前はそっち側だったか…」

主「？どういう意味だよ？」

俺は唐突に言われて意味がよく理解できなかった…

否理解できなかったのではなく理解したくなかったのかも知れない

友「お前と出会ってから毎日がとても愉快だったよホント退屈しなかった…」

主「何だよそのもう終わりみたいな言い方これからそれもそれはつづくんだよ…！」

友「いや無理だ…だって俺はもう死んでるんだから…」

俺は唐突に告げられた今の言葉に疑問を持った

主「俺は？」

友「ああ死んだのは俺だけだ」

主「！！！！！」

友「だから…」

主「そんなのってねえよ！！お前さっき言ったよな？「毎日が退屈しなかった」って！

俺も一緒なんだよ！俺も楽しかった！お前とふざけ合ったり

つまらないことで喧嘩したりバカやったり全部楽しかったのに…はい、そうですか

って言えるわけないだろ！」

友「俺はお前が死んでなくて良かった…」

主「？」

俺はかつこ悪くその場で泣きまくっていた…

友「だってよお前が死んだら悲しむ奴が沢山いるじゃねえか…」

俺には泣いてくれる奴なんて…ああ…がいたっけな

はは だからもう別に…」

主「それ以上言ってみろ！！！！お前を本気でぶん殴る！！！！！！！！！！」

そっいつて俺は柵を思いっきり殴っていた本気で…

友「殴れねえよ！！もう…」

そしていきなり柵が上がった見えなくなるくらいまで高く

天「本気で生きたいか？」

主友《！！！！》

友「な、俺はもう死んだんじゃないのかよ？」

天「お前は本来死ぬ人間ではなかった…」

友「じゃあ…」

天「その代わり条件がある…」

友「な、なんだ？」

天「そのの生きている人間と体を交代しながら使うのだ…」

友「！！」

天「ただし交代する時間は一日10分間だ　だがお前は体の中にいる間

そいつの視点から見ることとはできる」

友「それはこいつに迷惑…」

主「オツケーそれで生き返らしてくれんだろ？」

友「！！おまえ自分が何言ってるのかわかってんのか？」

主「ああ要するにこいつと四六時中一緒ってこつたる？」

生き返らせてくれるって言ってんだ文句はいえねえだろ？」

俺は当たり前のように言い張ってやった

友「お前それ嫌じゃないのかよ？気持ち悪くないのかよ？」

主「いやそりゃあ気持ちわるいよ？正直考えただけでも吐き気がしてくる」

友「だったら何で俺なんかのために…」

主「お前のためだからだよ！」

天「じゃあいいんだな？」

主「ああ」

友「…ああ　ありがとうな」

天「一つ言い忘れていたがお前はじぶんの事を人にばらしてはならん」

主友《えっ！！》

天「ばらした場合はこちら側に即強制連行だいいな」

主「お、おいちよつと待てよ…」

天「まあがんばることだそれではな」

主「お、おいふざけんな！！そんなこと許さね…」

視界が真っ暗になった

主「はっ！」

俺は飛び起きた

主「ここは病院？あれは夢？」

ばさっ

何かが落ちた音がした音が落ちた方に振り向くと

…がいた

…「…！！！」

主「おはよう…」

…「ばっかっおはよう！！」

罵りと挨拶が一辺に来た

主「俺どれぐらいお前を待たせた？寝てた」

…「…二ヶ月」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5148y/>

これは小説ですか？いいえ漫画のプロットです(本当です)

2011年11月17日21時10分発行